

## 全国規模の健康ビッグデータ研究に参加 ～八王子市×九州大学 共創によるさらなる疾病予防へ～

八王子市は、多摩地域で初めて九州大学が構築する全国規模の健康研究プラットフォーム「L I F E S t u d y」に参加します。この取組では、本市が保有する健康関連データを個人単位で連結・解析し、市民の疾病発症リスクを客観的に把握します。これにより、中長期点な視点で取り組むべき疾病対策を明らかにしていきます。

超高齢社会において、ビッグデータを活用した「EBPM（エビデンスに基づく政策立案）」を推進し、予防重視の施策を強化します。市民の皆様が安心して暮らせる未来をめざし、科学的根拠に基づく健康政策を進めてまいります。

### 1 本市における保健事業の課題

- (1) KDB（国保データベース）を各保健事業実施に関わる基礎データとして活用していますが、指標やデータ保管期間が限定的であり、より多岐、長期にわたるデータ基盤が求められます。
- (2) 事業実施の判断について、現状では、国や都のマニュアル、ガイドラインを参考にしながらも、個人の経験や資質によるところがあり、健診の結果等をもとに将来の疾病発症リスクなど予測モデルを活用し、取り組むべき課題を明らかにする必要があります。
- (3) 事業実施の効果について、現状では、事業実施前後のアウトプット（実績）の変化で捉えています。医療費適正化効果など、より具体的なアウトカム（成果）で評価する必要があります。
- (4) 市域の広い本市においては、地域課題が各エリアによって異なることが想定され、地域に根差した効果的な取組が必要です。

### 2 本市へのフィードバックと期待する効果

- (1) 現状把握の精度向上  
疾患の割合や疾患別医療費等を、同規模の参加自治体と比較し、本市の健康課題を客観的に把握します。

次ページあり

(2) 予防効果の「見える化」

例えば、がん検診の受診によって、将来的にどれだけ医療費を抑えられるかを科学的に算出します。

(3) 既存プログラムの効果検証

令和6年度（2024年度）から開始した「八王子血管まもろうプログラム」※について、参加者の透析導入リスクの低減効果を測定します。

※「八王子血管まもろうプログラム」

人工透析となるリスクの高い糖尿病性腎症を「発症させない介入」、「悪化の速度を遅らせる介入」の二本の柱で構成された八王子市と八王子市医師会、地域の腎臓専門医とで構築した八王子市独自の取組。

(4) 地域ごとの課題解決

市内の地域別に疾患状況や健康状態を把握し、予測モデルを活用することで、課題のある地域に効果的な介入を行うきっかけを作ります。

### 3 研究参加に関わる費用

無償 ※本市業務に関わる仕事量 約372時間/年

### 4 対象となるデータ

八王子市在住で、令和2年度（2020年度）以降に、以下の制度を利用された方のデータが含まれます。

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| (1) 国民健康保険医療制度  | (4) 生活保護制度     |
| (2) 後期高齢者医療保険制度 | (5) 障害福祉制度     |
| (3) 介護保険制度      | (6) 子ども医療費助成制度 |

### 5 個人情報の管理

個人情報漏洩を防ぐため、個人を特定できる情報を全て削除したデータを九州大学に提供し、統計解析を行います。

### 6 研究参加期間

令和8年（2026年）2月2日（月）から3月末日まで（次年度以降協議の上延長します）。

次ページあり

## 7 「LIFE Study」とは

「Longevity Improvement & Fair Evidence Study」の略称で、健康寿命の延伸と健康格差の解消を目的とした全国規模の研究です。

- (1) 最大、令和20年（2040年）まで追跡し、詳細な健康データ、医療レセプトデータから予後の評価を行います。
- (2) 医療・研究機関が多数参加し、専門家との連携や課題解決に向けた体制構築が可能です。
- (3) 目標症例数は、40自治体、500万人。すでに静岡市、中野区などが参加しており、八王子市が加わることで38自治体、463万人に達する見込みです。

